

令和4年4月 第20回「えざわ会」報告

岩丸純芳 (鉦山昭 37 卒)

新型コロナの影響で花見シーズンを2回パスしてしまった。今年もコロナの為に開催が危ぶまれたが幹事の中村氏(鉦39卒)、会計の神田氏(鉦39卒)のご尽力により例年より遅れの4月5日にいつもの学士会館(神保町)での開催に漕ぎ付けた。

「えざわ会」は東京在住であった鉦山学科恩師江澤先生の名の元で我々愛大鉦山・土木を卒業した者が大都会で生きる意気込みと連携で交流を深めて20年を経過し、先生がお亡くなりになったその後も広く新規加入者を募集しながら現在に至っている。会員の皆さんはこの意気に賛同されてこれまで松山、広島、大阪、京都など遠方から来て頂いていた。

しかし今回はコロナで参加人数が揃わず、幹事から「家族や友人も連れて来て」と声が掛かった。宮井氏(鉦37卒)は愛大卒の落語家「菊志ん」を応援しているがその後援会仲間浜松氏を連れて来た。浜松氏は昼食後の桜散策から二次会まで付き合ってくれた。

学士会館での昼食会は恒例の高級洋食にワインと酒であったが今年は参加人数減のせいか皆さんの声が小さかったのでビールだけになってしまった。先ず中村幹事から「ご冥福を」の掛け声で黙祷のあと欠席者についての報告があった。「先約有り」の方々が数人居たが今年は日程を決めるのが遅くなったので止むを得ないか。その他「コロナ自粛」の方々及び「足痛、腰痛」の方々であった。

常連だった諸先輩に欠席が多かった中で出席者最年長は林氏(鉦36卒)で、彼が居てくれたので場が締まって良かった。彼の口からは昔の恩師の話や勤務地ごとの面白い話が次々に出ていた。

その他の話題として、3月16日の地震は宮城県で新幹線脱線事故があり長期間運行停止になったが、東京でも相当に揺れた。つくば市の陶芸家桜窯藤原氏(鉦38卒)は棚の陶器が落ちる被害があったが大損害では無かったとの事であった。

宮城県の私はタンスと冷蔵庫の転倒防止棒が斜めになり危機一髪、夜中に立て直しをした。私は仙台からの上京が在来線使用になって宿泊費1泊増は痛かった。

一番元気な宮井氏(鉦37卒)は「80歳の壁、長生きの正解」との資料で長生きのコツを説明された。皆さん80歳を過ぎる頃なので興味津々であった。私が準備したのは学歌と寮歌である。学歌(伊予の高嶺の)は、1年ほど前に本日欠席の「えざわ会」会長首藤氏(鉦37卒)の誘いでビデオ通話をしたとき田中氏(鉦38



